

令和7年度 岐阜県

自然共生工法写真コンテスト

応募作品

No. 1

）

No.25

主催 岐阜県自然共生工法研究会
共催 岐阜県



清流ミナモ



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	ボランティアの前に小川に見入る
撮影場所	岐阜市達目洞(だちぼくぼら) 達目洞ヒメコウホネ特別保全地区
撮影日	令和7年5月7日
応募者コメント	春を迎えて自然が豊かになると同時に人も活発になり、ボランティアを開始します。作業前に小川に見入る至福の瞬間です。構造物は目覚めた自然に飲み込まれていくようです。
審査員とりまとめコメント	多くの人々の努力で長径間の高架橋となり、環境への影響が最小化された道路構造物が春の芽吹きを見せる自然に囲まれた、絶滅危惧種Ⅱ類指定のヒメコウホネを始め、多様な動植物が生息生育の場が保全されている達目洞の写真で、刈り込まれた草地にボランティアの方々の日頃のご努力がうかがえます。ヒメコウホネが生育する小川の水面も見られるアングルであれば申し分なかったところです。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	池田町の誇り
撮影場所	揖斐郡池田町藤代（霞間ヶ溪）
撮影日	令和7年3月31日
応募者コメント	揖斐郡池田町の霞間ヶ溪は、美しい自然景観を持つだけでなく、その植生と地形が土砂災害防止に貢献しています。私たちはこの自然の力を活かし、環境保全と災害予防の両面から持続可能な地域づくりを目指し、自然と人が共存できる未来を願っています。
審査員とりまとめコメント	朝日を受けた桜が背後の雲一つない青空と山に映え、時間の経過した構造物とも馴染んだバランスが絶妙の美しい写真です。だがそれだけに、流路工という急流の砂防構造物本来の役割を果たしている面が霞むおそれを感じられ、自然の力を真に活かした防災の追求という古くからの課題からも、少し下がった位置からの撮影で、急峻な山間溪流の出水時の厳しさがより想像し易かったらなお良かったです。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	テトラポット堰堤
撮影場所	岐阜市三輪（武儀川）
撮影日	令和7年7月28日
応募者コメント	テトラポットを段々に配置することで河川の緩やかな流れがつけられており魚の通り道が確保されている。長年経っているがテトラポットが上流部の土砂流出を防ぎ堰堤の役割も十分に果たしている。
審査員とりまとめコメント	新旧種々のコンクリートブロック群は、散乱しながらも全体として落差を保ち、左岸の根固ブロックの傾斜から推察されるように、土砂流送を制御して河床低下を抑制する床止めとしての機能を発揮し、同時に、通過する流れは、全断面魚道としての働きも示唆しています。一見すると人工的で不自然な景色ですが、緩やかな流れの水面と背後の空、周りの緑と柔構造の横断施設の対照は印象に残ります。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	中将姫公園内のたいしょう池
撮影場所	安八郡輪之内町本戸（たいしょう池）
撮影日	令和7年7月29日
応募者コメント	輪之内町の中将姫公園内にある「たいしょう池」です。 この池は、輪之内町が自然と調和した公園を整備し、絶滅危惧種のカワバタモロコが生息しています。 輪之内町では、平成21年に「輪之内町カワバタモロコ保護条例」を制定し、保全活動に取り組んでいます。
審査員とりまとめコメント	天然の素材を多用して周辺の植物に馴染ませた公園内の池の整備とともに、令和2年に特定第二種国内希少野生動植物に指定されたカワバタモロコの保護に、輪之内町として取り組まれている活動は賞賛に値します。こうした地域主体の保護活動が全国に広がることが望まれ、それには、生き物は潜んでいそうですが単なる池としか見えない現状について、水質を含めた保全の実態把握が必要と思われます。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	阿木川の親水公園
撮影場所	恵那市長島町正家（阿木川公園）
撮影日	令和7年8月2日
応募者コメント	阿木川と後田川の合流部に作られた親水公園で、後田川の流れの一部を引き込み、公園内を流れ、阿木川へと出ていくようになっています。水深も浅く、大きな段差も無い為、小さな子供が初めて川に触れるのに良い場所だと思います。
審査員とりまとめコメント	阿木川公園は、遠方に段丘上の住宅地を望む、緑に富んだ阿木川ダム下流区間の高水敷上に位置する、落ち着いた流況の好条件下にある都市公園で、小さな子供たちが水に触れやすいよう植石三面張りの人工小流が配されています。その景観には、川遊びをしている姿が目に見え、親水性の高さを感じられますが、写真では水源が不明で、常時の水流と水質・水温面からは水生動物の生息は難しそうです。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	流れ
撮影場所	揖斐郡揖斐川町上野（揖斐川特設カヌー競技場）
撮影日	令和7年8月3日
応募者コメント	2012年ぎふ清流国体を機に整備された、カヌー（スラローム）の競技場です。揖斐川本流から水を引き入れ、巨石の組積で変化あるコースが出来ています。
審査員とりまとめコメント	峡谷部を抜けて濃尾平野に出る揖斐川の扇頂部に設けられたカヌー競技・スラローム会場の写真で、開設後10年以上の時を経ても維持されスポーツ・レジャーに利用されています。対岸の寄り州を削って主流を中央部に移し、競技水路への流入量を絞るとともに巨石の組積で人工感を抑えながらその維持を図っていて、維持継続の背景には、右岸の山から河床に続く岩盤の利用があったとも推察されます。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	川で遊ぼう
撮影場所	郡上市白鳥町六ノ里（牛道川）
撮影日	令和7年8月5日
応募者コメント	栃洞橋の下にある中州です。曲線の美しい橋の下は、魚釣りや水遊びをした後にバーベキューができ、夏の思い出を作ることができそうです。
審査員とりまとめコメント	橋の写り方が良く、緩やかなカーブの新栃洞橋が人工物ながら柔らかさを醸し出し、橋梁が牛道川沿いの中山間地ののどかさによく馴染んでいます。石積みが見える中州はかつて耕作地であったことを思わせますが、写真では広く草に覆われていてアクセスが難しそうで、夏の思い出作りなど何らかの余暇活動に利用されていたと推測はできますが、全体的に自然共生的な要素が感じられなくて残念です。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	中山川のホタル
撮影場所	加茂郡八百津町和知（中山川）
撮影日	令和7年7月20日
応募者コメント	2009年3月に中山川の左岸に魚巣・植生ブロックが施工され、年々生体数が増え今では6月初旬頃から沢山の蛍が見られるようになった。家から徒歩5分ほどの場所にあり時折庭先に蛍が飛んで来る事もあり、毎年この時期を楽しみにしている。 毎年3月に春の環境整備作業によって河川内と護岸の清掃を行い維持管理されていて今後も綺麗な環境を保って蛍を大切にしたいと思う。
審査員とりまとめコメント	中山間地の山沿いを流れる中山川は、最上流にため池を有した地域農業を支える用排水路でもあって、中央の看板からは、地域の自然環境のシンボルであるホタルとともに、草刈り等大事に維持管理されてきたことや、地形的制約からか水際植生は少ないながら、何気なく置かれた魚巣ブロックに、ホタルに適した餌資源の確保など、河川管理者も安全と環境の両立に努力されてきたことが感じられます。

⑨



施工直後

現在



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	ひと手間による多自然川づくり
撮影場所	岐阜市山県岩西（石田川）
撮影日	令和7年7月10日（施工直後写真：令和7年1月30日）
応募者コメント	単調だった川の流れに対して、玉石を使ってバープ工を設置した。設置は人力で1時間程度で済み、まさにひと手間である。その結果、瀬と淵が明確に形成され、魚類の多様化が期待できる。併せて、曲線内方の堆積土砂がなくなり、治水上の利点も見られた。
審査員とりまとめコメント	単調だった施工前の写真がなく比較ができないため、玉石などの自然物を利用して冠水被害を低減しつつ、環境保全も図るバープ工法の効果の判断は難しく、小さな自然再生として「人力で1時間程度」とのことながら、人数が不明では余り意味をなさないのでは。バープ工が残る緩弯曲部外岸の水際に単調さはありませんが、内岸側ではワンド状の水域が消失し、出水を重ねた今後の経過が注目されます。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	多種魚類に適した小わざ魚道
撮影場所	加茂郡富加町滝田（川浦川）
撮影日	令和7年7月25日
応募者コメント	富加町かわまちづくり計画の一環として整備した小わざ魚道。円形の浅い小プールが魚のウロコ模様のように配置された構造は小さな棚田のようにも見え、水の流れる様子が良質な水辺空間を創出している。
審査員とりまとめコメント	俯瞰的構図でないため、十分大規模な構造物で「小わざ」が何を指しているのかが見えてきませんし、下段魚道を扇型にすることは理解できますが、上段まで同構造にする必要があったのかは疑問です。元来遡上経路の選択枝を増やすため、棚田式魚道などでも多様な流速や水深を生させる工夫がされています。「浅い小プール」のみだと外敵から隠れ逃れる場所は少なくなり、大型魚は登りにくいのでは。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	自然環境との調和
撮影場所	郡上市大和町徳永（長良川）
撮影日	令和7年8月4日
応募者コメント	河床低下対策として長良川に設置された石組みです。ひと目みるだけではそこに人工物があると思わせないほど自然景観と調和した工法です。洗堀を防止し、河床材料を捕捉することで川本来の姿を復元するため、施工を進めています。
審査員とりまとめコメント	凹凸に富んだ岩盤が適度に露出しているため、一部に人工感が残るのは否めないものの、ほとんどの石組みが横一列にならずに清流長良川らしい景観と河床の安定を維持していて、説明がなければ人工物であると感じにくいほどです。逆に効果がわかりづらく、インパクトの弱い写真となっていますが、施工が困難であった岩盤河床にもかかわらず、出水によく耐えてきていることは大いに評価できます。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	中津川の床止め工
撮影場所	中津川市（中津川）
撮影日	令和7年7月14日
応募者コメント	橋の付け替えに伴い、河川内の床止め等も施工された中津川です。河川洗堀による被害を抑えるために床止めが施工されています。床止めの上部に玉石を使用することにより、河川の景観が保たれています。
審査員とりまとめコメント	恵那山南西斜面からの多くの支流が供給する土砂を集めて流れる急流中津川の床止め群と護岸工の写真で、それらが河床勾配を緩やかにして流速を落とし、適度に土砂を止めて河床を安定させ、河岸とともに生物の生息・生育・繁殖の環境も護っているという工法の機能や効果がよく表現されています。緑豊かな山や人家の佇まいと川とがバランスした構図で、やや高い護岸の明度も落ち着いてくるでしょう。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	土岐川で食・自然を堪能できます
撮影場所	瑞浪市土岐町（土岐川）
撮影日	令和7年8月4日
応募者コメント	きなあた瑞浪BBQ広場の開設にあわせて親水階段を整備しました。BBQ広場では、手ぶらで手軽にBBQが出来ます！ BBQをしながら土岐川に入って川遊びはいかがでしょう。 土岐川は自然豊かなでオイカワやカワムツ、カマツカなど多種多様な生物が保全されている素晴らしい河川です。 ぜひ遊びに来てください。
審査員とりまとめコメント	BBQ広場を始めとする「きなあた瑞浪」への来訪者が土岐川の水辺に親しめるように設けられた階段工の写真で、親水階段の役割がよくわかります。水辺へのアクセスが容易になって魚捕りもできそうですが、自然共生へのコメントが希薄な点と周辺に比して階段工の白さが際立っている点は残念です。また、この規模の河川だと高い親水性は水難事故に直結するため、来訪者への注意喚起は不可欠です。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	土岐川のみずべの楽校
撮影場所	瑞浪市土岐町（土岐川）
撮影日	令和7年8月4日
応募者コメント	土岐川のみずべの楽校にある魚道の写真です。 地元住民に土岐川に親しみをもってもらうため、多治見土木事務所で工事をしました。 階段式魚道と棚田式魚道が組み合わさった構造になっています。 地元小学生のカワゲラウォッチングにも利用しており、自然環境を勉強するための場として活用しています。
審査員とりまとめコメント	みずべの楽校は、学校とは異なるスタイルで学べる場所で、目の前で魚道を遡上する魚類を見られることは子供にとって大変貴重な経験になり、環境学習の場として活用されている点は高く評価されます。ただ、写真のアングルでは堰堤や魚道が遠くて、「階段式魚道と棚田式魚道が組み合わさった構造」を認めにくく、水辺が深い草むらで覆い隠されていて川に近づく工夫を捉えられない点も惜しまれます。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	蔵柱川における災害復旧工事
撮影場所	高山市上宝町蔵柱（蔵柱川）
撮影日	令和7年7月8日
応募者コメント	山間の急流河川である蔵柱川において災害復旧事業として工事を行った現場である。現地発生の巨石を用いた落差工を複数設け、魚類などの水生生物の生息場の形成を図った。また、山付きの対岸は洪水により法面浸食が進行していたが、今回工事において緩勾配の法面として整形し、陸域と水域の連続性確保を図った。
審査員とりまとめコメント	工事場所は蔵柱川が小規模の谷底平地から峡谷部に入ったところと推察されますが、災害復旧事業での安全確保と環境保全との調和は難しい課題で、粗石を集積・残置して河床の安定と水生動物の生息場の形成を図り、山付きの右岸を緩傾斜法面として陸域と水域の連続性確保を目指した点は自然共生工法として評価でき、賞賛に値する両立の努力として、出水等への今後のフォローアップを望んでいます。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	宮川に息づく共生の風景
撮影場所	高山市下三之町（宮川）
撮影日	令和7年5月29日
応募者コメント	自然石を配した川には、魚や鳥など多様な生き物が息づいている。人が川辺に近づく護岸整備がされており、自然とのふれあいと共生の風景が生まれている。
審査員とりまとめコメント	高山市下三之町という観光都市の中心を貫流する、自然石の護岸と変化のある河床を有した宮川と観光客の姿も見える周辺の佇まいとの一体感がよく伝わる一つの人工美の写真で、水叩き下流の護床に見られる苦労の跡など、落差工や水叩きの機能も表現され、全体として落ち着いた中にも落差工上や粗石間の流れに躍動感があって、写真のでき映えを上げていますが、ニシキゴイの姿には違和感が残ります。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	谷あいの共生
撮影場所	養老郡養老町養老（養老公園）
撮影日	令和7年4月29日
応募者コメント	谷あいを流れる清流に沿って築かれた石積み護岸は、水流をやさしく制御しつつ、自然景観を損なわないように配慮されている。 周囲の緑・山・川と調和しており、訪れる人々の憩いの空間となっている。
審査員とりまとめコメント	成功例が多数見られる養老山系から山脚部の扇状地群に至る一帯の治山・砂防工事の一つで、山間の名勝養老の滝から流れ下る急流を制御している自然石の落差工と流路工が周辺の自然環境に溶け込むような緑溢れる写真で、遠景の谷間と近景の谷間とが一連で調和を感じる絶妙の構図です。流路は三面張りながらその機能美が際立ち、手前の階段などに親水性の考慮も見え、ゆっくり歩いてみたい景色です。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	高山の町並みと江名子川
撮影場所	高山市大新町（江名子川）
撮影日	令和7年5月27日
応募者コメント	高山の町並みと江名子川の河川護岸が調和している様子は、とても美しい情景ですね。江名子川は岐阜県高山市を流れる清流で、歴史ある町並みと自然が融合した風景が魅力です。護岸整備も、景観に配慮して伝統的な石積みや自然素材を使っていることが多く、町の雰囲気壊さないよう工夫されています。
審査員とりまとめコメント	観光都市飛騨高山の中心部にある重要文化財の吉島家住宅に沿って宮川に合流する江名子川最下流部は、洪水処理が困難な狭小の局所的急流にも拘わらず、工夫を凝らして古い街並みの情景を損ねない改修を施し、治水と文化財保護・歴史的文化景観維持とを両立させています。細い川をクローズアップした写真は撮り方が良く、白堀に緑の松に擬石護岸に挟まれた流れの組合せはそれをよく表現しています。



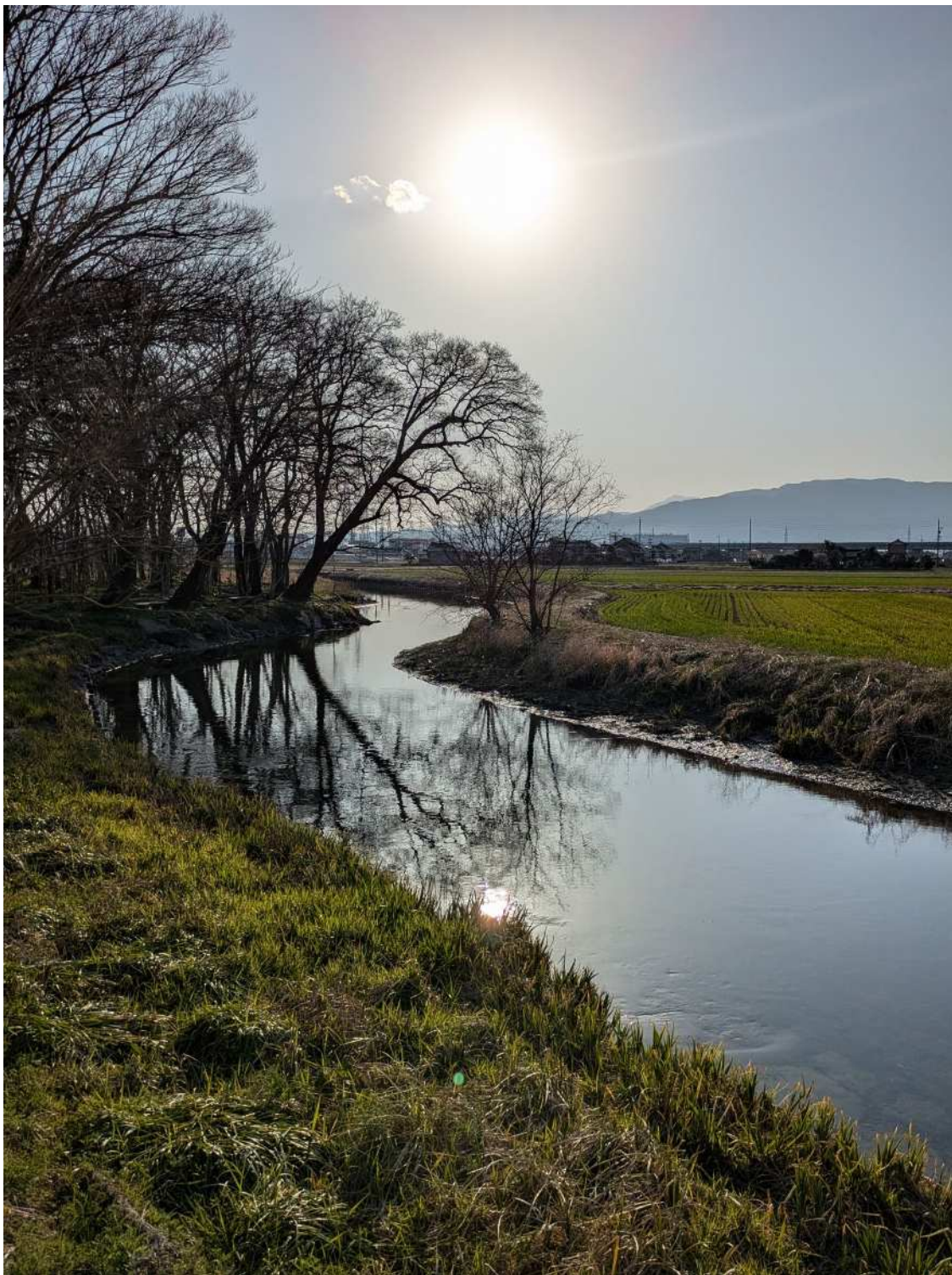
2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	時を重ね、景観と一つに
撮影場所	安八郡安八町中須（中須川）
撮影日	令和7年7月10日
応募者コメント	擬木フェンスが田園に溶け込み、景観を守りながら安全を確保。経年で色合いがやわらぎ、自然と共に息づく風景となりました。
審査員とりまとめコメント	中須川の堤防に沿った遊歩道のポケットパークの写真で、中須川は左手の木々に隠れた土手の先を流れており、右手には市街地を背後にした圃場が広がっています。化粧を施した遊歩道は、擬木フェンスが経年変化で景観に馴染んで温もりが感じられ、樹木が連続した日陰を作って心地良さそうで散歩したくなってきました。俯瞰したアングルで広い範囲が撮影されていると作者の意図がより伝わるようです。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	嘴一閃
撮影場所	本巣市（根尾川）
撮影日	令和7年8月4日
応募者コメント	斜路式魚道でサギが魚類を捉えた一瞬。この魚類が遡上中か下降中かは不明だが、魚類の縦断方向の移動に魚道が寄与していることがうかがわれる。但し、魚道を移動中の魚類の捕食については賛否両論があるだろう。
審査員とりまとめコメント	根尾川には種々のタイプの魚道が設置され水生動物の移動を支えています。そのうちの斜路式植石魚道を移動する魚をアオサギが捕食した一瞬を捉えた写真は、躍動感のある流れにも焦点が合い、まるで時間が止まったかのように食物連鎖で繋がる生態系の一コマを切り取り、自然共生工法の一つである魚道の機能を示し、構造物全体と周辺環境との調和もさることながら、根尾川の豊かさを象徴しています。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	都市河川の憩い
撮影場所	本巣市軽海（犀川）
撮影日	令和7年3月22日
応募者コメント	犀川の9km付近（さいがわ公園付近）の様子。左岸の高水敷に整備された「やすらぎの林」には遊歩道やベンチが設えられ、高木が陰を提供し、市民の憩いの場となっている。河岸の除草も行われ、また右岸に広がる水田とも共生しているようだ。
審査員とりまとめコメント	河川敷に余裕が残る区間の犀川の高水敷に残されていた河畔林を「やすらぎの林」として整備したとのコメントは、写真の雑然とした樹林には違和感が残り、タイトルの「都市河川」もこの情景にはそぐいません。しかしながら、水田やその奥にある家々、山々を背景として、のどかな田園地域を蛇行する緩流の鏡のような川面に黄昏の残光や河畔林の影が映る自然の特徴を活かした整備の意義は高いです。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	緑の回廊
撮影場所	大垣市矢道町（矢道川）
撮影日	令和7年8月14日
応募者コメント	大垣市の西側を流れる矢道川の上流部です。連接ブロック護岸と水際にかごマットが施工されていますが、施工後二十数年が経過し、水際付近まで植生に覆われています。護岸の勾配が1：2.0と緩く、所々に階段が設置されているため、水際まで近づきやすく、多くの魚が泳ぐ姿やトンボが飛び交う姿を見ることができます。
審査員とりまとめコメント	河道や橋梁の様子からは未改修区間のようにも見え、改修後20数年経過した自然共生工法の護岸が土砂の捕捉と雑草の生育等でしっかりと固定され、流水阻害は懸念されますが、昔の小川を想起させる光景をもたらしています。親水性確保の階段工から撮影した写真にはヌートリアが写り込み、特定外来生物とはいえ、生物の生息・生育・繁殖を支える環境が再生・維持されていることに違いはありません。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	板取川に架かる橋
撮影場所	関市洞戸阿部（板取川）
撮影日	令和4年8月25日
応募者コメント	板取川に架かる古い橋が、周囲の景観に溶け込んで、心なごむ風景です。
審査員とりまとめコメント	板取川の深い谷にエメラルドグリーンの流れといつの架橋か不明の歴史的興味も湧く老朽橋の渓谷美の中に、中山間地における人びとのかつての暮らし向きが偲ばれ、河川風景に何かしらの懐かしさが、また、中央の岩場を利用した建設に自然共生の工夫が感じられます。ただ、写真中央の白い通行止めバリケードは興ざめで、何事に拠らず、道路管理者にも周辺の情景に馴染むような配慮が求められます。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	盛夏の円原川
撮影場所	山県市円原（円原川）
撮影日	令和7年8月9日
応募者コメント	工法の良い点として、護岸が露出していない、護岸の肩や水際が直線的ではない、兩岸の河畔林が保全されている、比較的川幅が広く滯筋に自由度がある、河道内の巨石が保全されている、人道橋が周辺になじんでいる、階段があるといった事が挙げられます。
審査員とりまとめコメント	武儀川水系神崎川支川円原川は水が極めてきれいで、川沿いに点在するやや開けた土地には古くから人びとの暮らしがあったとみられ、その中心集落を貫流する川の夏の情景の美しい写真は、山間の地質・地形と降水の自然条件に沿って、大規模に川に手を加えることなく、生活の場に不可欠の人工構造物を周囲の自然環境に融和させて、自然と共生する生活を成り立たせてきた地域の姿を彷彿とさせています。



2025年度 岐阜県 自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	木曽川の今渡の渡し跡へ続く遊歩道
撮影場所	可児市今渡（木曽川）
撮影日	令和7年7月15日
応募者コメント	可児市今渡の木曽川左岸に石畳の遊歩道が続いています。 石畳や植生は適正に管理されており、擬木の転落防止柵も景観になじんでいます。 川沿いの心地よい風を受け、当時の渡しの活気に思いをはせながら、歩いてみてはいかがでしょうか。
審査員とりまとめコメント	木曽川の太田（今渡）の渡しは、1926（大正15）年の太田橋完成まで、碓氷峠、木曽の棧（かけはし）と並んで「中山道三大難所」の一つとされた交通のネックで、明治時代には岡田式渡船でも知られていました。その渡し跡に続く散策路は、近道の階段を含め、石畳や転落防止柵の色調など、河川景観に馴染むように整備されて江戸時代当時の面影を醸し出し、歩いてみたくなる景観となっています。